

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大成小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、漢字を文章の中で正しく使うことができるように、重点的に取り組み、R7年度のさいたま市学習状況調査で検証していきたい。
思考・判断・表現	思考力・判断力・表現力の向上に向けて、他者に自分の考えを伝える活動や、他者の考えを受け入れて、よりよい考えを導き出す機会を多く確保できるように授業改善を図っていきたい。そのために、ICTを効果的に活用できるようにし、R7年度の学習状況調査で検証していきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 課題解決に必要な知識や技能の定着が不十分である <指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、基本的な知識や技能の習得に取り組む時間を設けたり、自分の課題に合わせた内容に取り組む時間を設け、反復・習熟に取り組む。【毎授業開始時の実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学習に対して受け身になり、意欲的ではない場面がみられる <指導上の課題> 授業の中で、子ども主体の学びとなる場面が少ない	⇒ 活動の中で、課題解決に向けた解決方法や、活動のまとめ方などについて、児童の興味関心に応じて選択できるように設定する。【さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	朝自習や、授業の中でドリルパークを活用した漢字や計算の反復練習が習慣化し、自校テストの結果に伸びがみられた。また、単元のまとめとして、ドリルパークを活用して、各教科の基礎・基本となる内容の習熟を図ることができた。
思考・判断・表現	A	R6年度さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、5、6年ともに肯定的な回答の割合が90%以上であり、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の主語・述語の関係を捉える問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、主語を形式的に判別して、文の構成を理解した上で、主語と述語との関係を捉えることができていないと考えられる。また文の構成を理解した上で、修飾と被修飾との関係や主語と述語との関係を捉えることができていないと考えられる。	
思考・判断・表現	国語の目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうかをみる問題に課題があった。解答類型を見てみると、事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いて、条件を満たさなかった児童が多く見られた。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題」において、どの学年も市の平均正答率を下回った。漢字の練習の際に、熟語を調べたり、文章を作ったりするなど、学習した漢字を文の中で使う活動を大切にしていこう。
思考・判断・表現	国語の「話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができるかどうかをみる問題」の平均正答率が低く、同領域の異集団比較において、昨年度と同等、もしくは下回る結果となった。助言をし合っている様子をグループ同士で見合うことで、どんな助言の仕方が有効であったかを確認するなどの活動を大切にしていこう。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	基本的な知識や技能の習得に取り組む時間を設け、学習プリントや「ドリルパーク」等を活用し、習熟を図ることができた。自分の課題に合わせた学習を進んで取り組むことに課題が見られ、計画を立てる場面の充実を図る必要がある。	単元の導入場面で、学習計画を立てる活動の充実を図ったり、週に1回設定している、のびのびホームワークデー(一律に出される課題ではなく、自分に必要な課題について取り組む日)等を活用し、児童が自己に必要な学習に取り組む機会を多く作る。
思考・判断・表現	C	国語科を中心に、各教科の学習において、課題解決に向けた解決方法や、活動のまとめ方などについて、児童の興味関心に応じて選択できるように単元を構成しながら取り組むことができた。学年や教科により取り組み状況に偏りが見られた。	これまでの取組を充実させるとともに、学年や、教科を広げて取り組む。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)